

手摺の種類・配置方法

様々な手摺の作成方法をご説明します。



H800_単体連 H800_単体R連



H800_端部 H800_端部R H800_連続

手摺を作成する方法

連続して手摺を作成する方法

単体の連続を使用して作成する方法です



ドラッグで配置



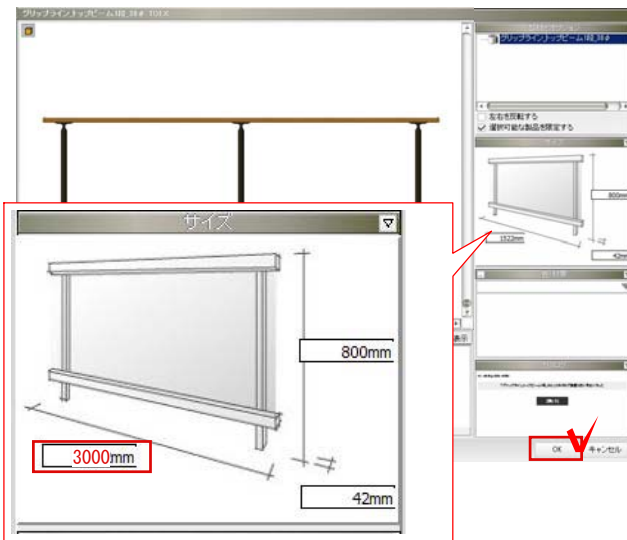
H800_単体連 H800_単体R連



Wクリック

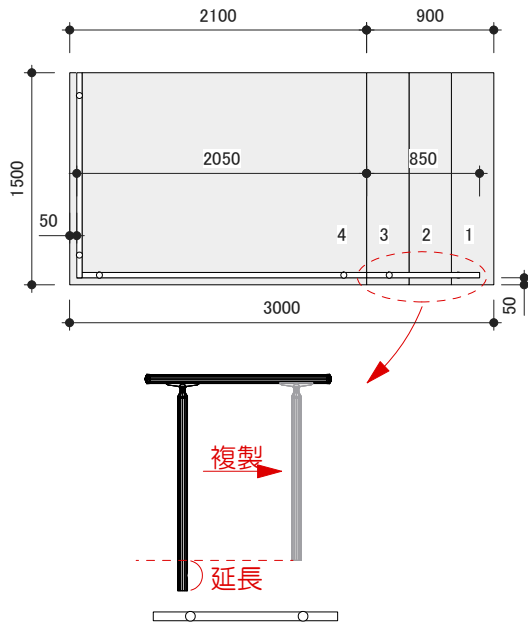
1：配置したい手摺の中の単体連の手摺を平面図上にドラッグで配置します。

2：手摺の上でWクリックします。



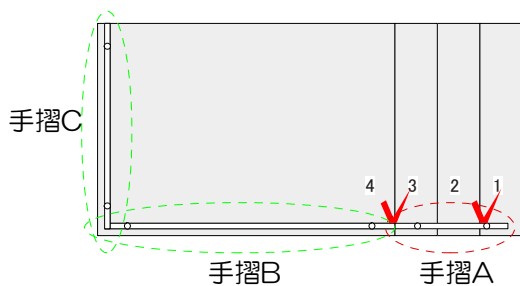
3：1500のスパンであれば、3000という形で入力するとスパンに合わせて柱が配置されます。

スパンが決定したら、OKボタンで画面を閉じます。



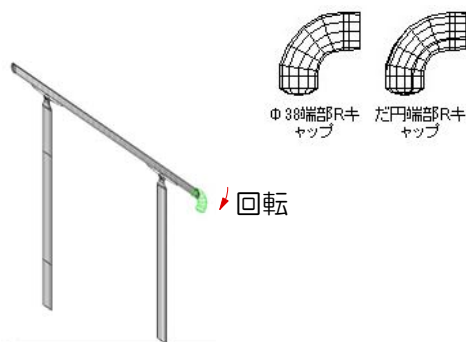
4：寸法は斜めの部分と、真っ直ぐな部分に分けて配置します。
Rの端部がある場合は予め50前後ほど短めに作成します。

5：足りない柱は、eE-Formerを起動して複製します。
また、後ろ脚はレベル設定後、足元が浮く可能性があるので、予め下に延長しておきます。
2D表記も忘れず、柱の平面表記を作成しましょう。



6：加工からレベル一括変換を選択します。
前足の後ろ部分と手摺の接続部の2点にレベル入力します。
シンボル変形モードは『完全変形』を選択します。

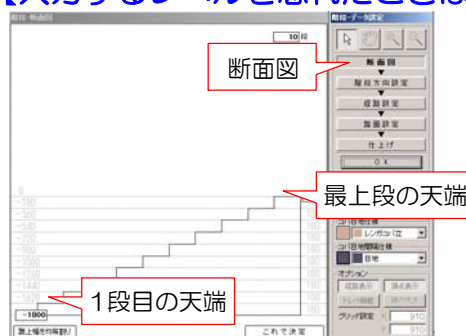
7：手摺BとCはレベル指定で設定します。
その1：選択して右側の入力欄にレベルを入力。
その2：加工の移動Z値で現状の高さから上げ下げしたい数値を入力。
その3：レベル一括変換で下端レベルを指定。（2点or1点：レベルのみ）



8：端部をつける場合は、再度eE-Formerを起動し、端部の製品を前から見たアングルに配置します。
向きが異なる場合は回転もしくは反転で合わせます。
回転で手摺の傾きに合わせます。
※レベル一括変換前に行くと歪な形状になります。



【入力するレベルを忘れたときは】



階段の断面図の部分で、1段目の天端と最上段の天端をあらかじめメモしておくとも計算しなくてもすぐに入力する事ができます。